



## ～県大と地域をつなぐ～

この情報紙は、県立広島大学庄原キャンパス（以下「県大」と表記）の学生や教授が、どんなことを行っているのかだけでなく、市内で学生と活動している人たちを紹介し、大学と地域をつなぐことを目的としています。



\*タイトルにある「はげら池」は県立広島大学庄原キャンパスにある池の名称です。

## 県大活動レポート！

### Farmar's Hands 活動報告

平成 29 年 3 月 4 日（土）、口和自治振興区青年部主催の「くちわらぼ」地域活動研修会が開かれ、30 人の参加があり、県大農林業ボランティアサークル「Farmer's Hands（ファーマーズ ハンズ）の皆さんから、平成 28 年度活動報告がありました。

今年度の課題であった「学内活動のPR」について、「手ごたえを感じる活動が出来た」と報告があり、参加者から「きちんと課題解決ができればいい」「自分たちも学生に見習ってがんばらにゃいけんね」といった声がありました。



学生活動とまちづくりについて意見交換

その後の交流会では、学生の皆さんから「農業で自分の地域を活性化させたい。私たちに声をかけてもらって、いろいろ教えてください！」「将来できれば庄原・三次で就職して農業に関わっていきたい」との話を聞くことができました。卒業後も庄原に残りたいと願う学生の言葉に、嬉しさを感じると共に、それに応えるため私たち市民も努力をしなければならぬと改めて実感しました。

## 卒業生から在校生へメッセージ

### 自分の欲求に忠実になって欲しい

3月24日、県大の卒業式が開かれます。今年度は183人の方がこのキャンパスから巣立っていきます。今号と次号では、卒業生の方からのお話を掲載します。

加藤遼さん（環境科学科 <sup>みとま</sup>三苦研究室所属）

新潟出身で庄原には何の縁も無かったため、入学する前にはインターネットで色々調べ、緑の多さや電車の本数の少なさなどによりかなり不安でいっぱいでした。実際に住んでみても車を手にするまでは、買い物や通学も大変でした。

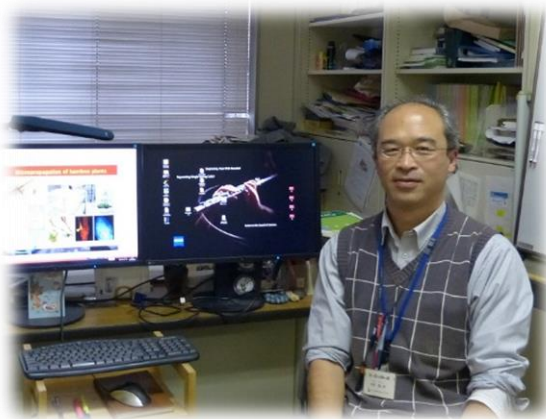
県大は周りに他の大学がないこともあり、来たばかりのころは、かなりのんびりとしていて大学生活ってこんなもんかなあ、と思っていました。しかし、地元の同窓会で高校時代の友人と話をする、将来の目標や自分のやりたい事に熱心になっているのを知って焦りを感じてから、自分のしたい色々なことに取り組むようになりました。

学業はもちろんのこと、部活でもサークルでも、またはプライベートでもよいので何か自分がやりたいこと、何か本気で打ち込めることを先輩たちには、いち早く見つけてほしい。それをがんばり続ければ自然と新たな道は広がります。庄原は田舎で何も無いかもしれないけど、何も無いからとってのんびりとしていたらもったいない。誰もが持っている自分の欲求に対して忠実になって大学生活を過ごしてください！



現在大学4年生の加藤遼さん。  
卒業後は京都大学大学院へ進学されます。

## 身近な竹を使って海と山を繋ぐ～荻田教授～



荻田信二郎教授

生命科学科の荻田信二郎教授は、植物のもつ有用な成分やその性質・特性などに焦点を当て機能を高める植物細胞工学の研究をされています。

特に竹に関しては、竹を肉厚に育てられないか、タケノコを通年で採れるようにできないか、といった研究をされています。また、前任地の県立富山大学では「福竹茶」という竹100%のお茶の開発に携わられています。

荻田教授は「竹は人々の暮らしに有益なものとして利用され、以前は盛んに栽培されていましたが、今では管理の手が行き届かなくなり、里山の厄介者として扱われるようになっています。しかし、奈良の伝統工芸品である茶せんには今でも竹が素材として使われており、有用な素材であることは皆さんご存知だと思います。

広島では宮島のしゃもじやカキいかに竹は使われていますが、実はこれらの竹製品には、広島産以外の竹も多く使われています。庄原をはじめ県北部の山から採れる竹を使うことで山と海をつないでいければ、地域おこしにつながるのではないかと話されました。

## しょうばら産学官連携推進機構

「しょうばら産学官連携推進機構」は県大と産業界、行政、地域社会などの連携を強化し、活力ある地域社会を創造するための橋渡しの役割を担う組織として平成15年4月に創設されました。

庄原市を始め、庄原商工会議所・備北商工会・東城町商工会・庄原農業協同組合・県立広島大学で構成されており、庄原商工会議所には専門のコーディネーターを配置しています。

山内自治振興区が取り組んでいる竹粉末を堆肥に利用して栽培した米「里山の夢」や、豚の餌としてどんぐりを混ぜて育てた豚の肉「どんぐりコロコロ豚」も連携推進機構が地域や事業者と県大の研究のマッチングを行ってきたものです。「はげら池のほとりで vol.4」で紹介した古代米クッキー「むらさきのゆめ」もこの連携推進機構によって開発された商品です。

コーディネーターの仲さんは「創業したい方や特産品開発をしたい方なども何か挑戦していることなどあれば気軽に相談に来てください」と話していました。



しょうばら産学官連携推進機構の  
仲 正人さん

## 編集後記

今回は「しょうばら産学官連携推進機構」取材しました。私も大学と地域の連携で活動しています。「そもそも大学ではどんな研究をしているのだろうか?」「自分達の行っている事に何か関係があるのだろうか?」と思われることもあると思います。そういったところは私や、他の地域おこし協力隊員が相談に乗りますのでこちらも気軽に相談に来てください。



地域おこし協力隊  
日置 大輔